

目次

□巻頭言 建設の機械化の行方……………清水 四郎 / 1

□協会の事業活動

    社団法人日本建設機械化協会定款…………… / 3

    本協会の事業について…………… / 4

    本協会各分会および建設機械化研究所の動き…………… / 5

□分会研究報告

    ショベル系掘削機構造性能基準（改正）の審議経過報告  
         機械技術部会 / 12  
         ショベル系技術委員会

    コンクリートポンプの仕様表示規準（案）および同解説（案）  
         機械技術部会 / 20  
         コンクリート機械技術委員会

    建設機械用稼働記録計の研究報告……………建設機械用計器研究委員会 / 23

    地質的にみた岩石トンネルの現状分析……………施工技術部会 / 26  
         岩石トンネル掘進機委員会

グラビヤ—除雪機械展示実演会

建設機械整備業の実態と問題点……………整備技術部会 / 33  
 税制委員会

□昭和46年度官公庁の事業概要

建設省事業の概要……………坂口 寿 / 36

日本道路公団の事業概要……………高橋 大輔 / 41

首都高速道路公団の事業概要……………山根 一泰 / 46

阪神高速道路公団の事業概要……………池橋 金一郎 / 51

本州四国連絡橋公団の事業概要……………田哲夫 / 55

水資源開発公団の事業概要……………八木 直樹 / 61

日本住宅公団宅地開発事業の概要……………三村 篤敬 / 67

□随想 フィリピン良いところ……………小栗 良知 / 70

特許法改正の問題点……………北西 務 / 72

昭和45年度除雪機械研究会の概要……………長田 忠良 / 76

□建設機械化講座 第96回 現場フォアマンのための土木と施工法  
 XVII. 建設機械概説

    1. 建設機械の基礎知識（その3）……………布施 行雄 / 80

□工場めぐり

    油谷重工広島製作所……………星野 日吉 / 89  
         阿曾 沼快 行

    多田野鉄工所本社工場……………横田 寛久 / 92  
         伊達 章

□建設機械化研究所抄報

    試験研究報告（No. 75）……………建設機械化研究所 / 95

□文献調査

    コントラクタは建設機械メーカーに何を要望するか……………調査部会 / 99  
         文献調査委員会

    スクレーバの大量導入と  
     いくつかのアイデアによる大土工事の完遂……………調査部会 / 100  
         文献調査委員会

ニューズ……………（編集部） / 102

行事一覧…………… / 102

編集後記……………（中野・鈴木（康）） / 104

◀ 表紙写真説明 ▶

CAT 992 ホイールローダ

キャタピラー三菱株式会社

鹿島港をはじめとして工事の近代化、大形化が急速に進み、コスト低減、工期の短縮がますます要求されるようになってきた。こうした動きを反映して工法や施工機械の効率向上が研究され、積込機もスピードのあるタイヤ式へ移行しつつある。本機は日本国内で稼働する最大のもので、碎石場や宅地造成現場で活躍している。

本機のおもな特徴は次のとおりである。

① フライホイール出力558PS、総重量54.8t、バケット容量7.65m<sup>3</sup>と超大形ホイールローダで、32tダンプにも3回で積込むことができる。

② 巨体を軽々と操作するキャタピラーのパワーシフトは、過酷な作業に抜群の耐久性と生産性を実証している。

③ 1回当り13～14tの土を運ぶことができるので、運搬距離の短い場合にはロードアンドキャリ工法（積込自走運搬）によるコストダウンが有効である。すでに各地の碎石場などで原石採取とホッパーへの運搬に威力を発揮している。